

キウイフルーツかいよう病菌の発生園地の動態

かいよう病 (Psa3) が発生し発病樹を伐根した園地ではキウイフルーツを再開する場合、土壤伝染し再び発病する懸念がある。このため土壌中のかいよう病菌を低密度まで把握できる手法 (Kcl法) を確立して発病樹を伐根した園地における土壌中のかいよう病菌の有無を調査した。また圃場資材 (棚線、支柱) におけるかいよう病菌の有無も調査した。

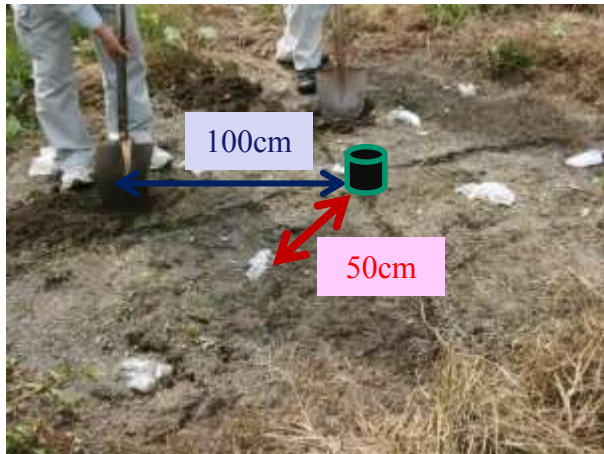


表 発生園地の土壌検定結果 (伐根後概ね2か月経過)

伐根園地	深さ	8月13日			9月26日	
		0cm	50cm	100cm	50cm	100cm
株1跡地	10cm	0/1	0/4	0/4	0/4	0/4
	30cm	0/1	0/4	0/4	0/4	0/4
株2跡地	10cm	0/1	0/4	0/4	0/3	0/4
	30cm	0/1	0/4	0/4	0/4	0/4

1) サンプル2gをKCL法により前処理し、MagExtractorで抽出

2) 数値は陽性数/検定数



伐根3か月後の調査では、棚線、支柱からは検出されず。

伐採・伐根2か月後には土壌中の菌密度は検出限界値以下となり、また圃場資材からかいよう病菌は確認されなかった。